

# 逸話4 饗応相撲でどうする？

1604年（慶長9）7月17日、秀康は伏見屋敷に家康と秀忠父子を招き、饗宴の後に相撲が催されました。取り組みは越前の力士「嵐追手」と加賀の力士「順礼」の三番勝負で行われました。

1勝1敗で迎えた最後の勝負では、激しい攻防の末ついに越前の嵐追手が勝利しました。見物人は興奮してしまい、役人が静止しても歓声が止みません。そこで秀康が立ち上がり会場を見回すと、一瞬のうちに見物人は静まり返りました。これをみた家康は「秀康の威勢に感心した」と大変喜んだということです。

（「越叟夜話」「南越雑話」）



参考：「勸進大相撲興業之図」（国立国会図書館デジタルコレクション）

※江戸時代後期の相撲を描いたもので、秀康時代のものとは異なる